

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300456		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム マリンの家		
所在地	三重県鈴鹿市中旭ヶ丘1-11-8		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町提出日	平成26年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470300456-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 26 年 10 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9月に新しい管理者が着任し、5年ぶりに新体制となりました。管理者が交代するという利用者、家族の戸惑い、不安を真摯に受け止め、その中から これまで埋もれて気づかずにいた課題やニーズを再発見するべく 職員一同気持ちを新たにしてお取り組みをしています。利用者も高齢化し馴染みの関係も薄れがちになる一方ですが 新たな絆作りを合言葉に他グループとの交流を始めました。この先何をしようか？若い頃、慣れ親しみ、楽しく過ごした記憶に思いを馳せる事が出来るような働きかけを中心に支援をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は新しく道が開通し、店舗や病院が次々に開設され、住宅も多く活気のある地域である。同建物内にはデイサービス、訪問介護、地域住民の利用する多目的室の開放もあり、地域の高齢者介護の拠点となっている。この夏からは自治会の会合にも参加し、自治会長や民生委員を始め、地域からの協力も得ながら、理事長を筆頭に開かれた事業所となるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	9月から新体制がスタートし、全職員が改めて理念の持つ意味、目指すところを再確認し合った。	3～4年前に職員全員で考えた『『共に生きる』絆を結んで、心開いて！』を掲げ、利用者・家族・地域・職員がつながり、寄り添って暮らしを作り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が所属する自治会とは、主に行事や防災を通じて交流している。自治会からは市報をはじめ地域の便りも配布され皆で読んでいる。	地域の防災訓練に駐車場を、月1回のふれあいサロンに多目的室を提供し、理髪や掃除のボランティア、小中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所2階で行われた地域の集まりに法人の事務長が出向き認知症についての理解や知識を深めてもらうべく、講習を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度開催され 行事や取り組みについて報告し意見を頂いている。外出行事では地域ならではの情報や提案をもらい実施に繋がった。	情報交換や参加者から提案がされ、防犯や新しいお店、季節ごとの名所等を知る機会となり、実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や利用統計表を提出に行った際 報告や相談を行っている。今年度は介護計画書の改善について相談、アドバイスを頂き実践に繋がっている。	常に報告や相談を行い、市担当者も熱心に対応してくれ、協力関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束には言葉による拘束も含まれるとして、無意識のうちに行ってしまう可能性のある拘束について お互い注意しながら毎日の支援に取り組んでいる。	玄関の鍵は常に開けられ、死角になるためセンサーを設置して注意しており、出て行く利用者には付き添い対応をしている。拘束に当たる行為は無いが、言葉使いに特に気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士 知らず知らずに行ってしまう可能性のある虐待についても、見過ごされることがないようにそれぞれ注意しあいながら 声を掛け合いながら毎日の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、過去においても対象者がおらず 職員の意識に委ねている程度である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には 契約書類を家族と共に読み合わせし、質問や疑問はその都度解決しながら 納得を得ながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	奇数月に開催する家族会や 日々の面会時に要望や意見を伺っている。外出や食事作り等の要望が多い。	家族会や面会時に日ごろの様子を報告し、意見を伺う機会となっている。意見は職員会議で検討され、反映していけるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の理事長や管理者と職員が定期的、または要望に応じて面談し 意見や提案を聞く機会を設けている。	職員関係や勤務条件に関することは、理事長が面談をし対応している。また、会議時や日常でも意見が出れば職員間で検討し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の理事長が直接個人面談で職員の希望等を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部から各種研修の案内が随時届き、希望する職員を募っている。研修を終えた職員は課内会議等で 伝達研修を行い全員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームとの交流を始めた。またグループホーム協会への参加も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず環境が変わることに対する不安を解消し、安心できる場所であるとの認識を持ってもらったうえでなければ、困っていることや要望は聞かせてもらうことは出来ないと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべく早い段階から面談を繰り返し、家族から得た不安や要望を一つ一つ解消していくことを積み重ねることによって、よい関係が築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや利用していたサービスからも情報を提供してもらい、まず何が必要かを見極めるヒントとしている。必要であれば、以前利用していたサービスにも出かけ本人の生活に取り入れることも視野にいれている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、自分に出来る家事について役割を持ってもらい協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活において、特に緊急時は家族の協力を必要とするので連携を取りながら、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や取り巻く環境も、高齢化が進み、馴染みの人や場所も途切れがちではあるが、記憶に残る場所や話を足掛かりにドライブや行事にでかけている。	通院帰りに通いなれた道を通ったり、和菓子屋に寄ったり、思い出話が出れば出かけてみたりしている。地元のお祭りの獅子舞を見に行くことが恒例の楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者にも、相性があり、その見極めを慎重に行いながら関わり合いが本人にとってプラスになるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとでも 家族に近況を尋ねたり退居先で困った事があれば解決に向けて相談やフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか希望を伺う事が困難な場合が多いが 個人の生活歴や家族からの聞き取り、日々のちょっとした反応、変化等を繋ぎあわせながら検討をしている。	入居時には全担当者から詳しい情報を引き継ぎ、家族から生活歴や好みを聞き取り、できるだけ多くの情報を集め、重度化して意見の表出の難しくなる利用者の意向をつかむよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人から聞かせて頂いた情報を時系列にひと目でわかるよう 1枚のシートにまとめサービス提供のヒントとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の好む過ごし方は だいたい決まっておりますそのペースを把握し支援している。有する力に関しては手伝い過ぎない介護を念頭に置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が新しい書式を用いて 現在の心身状況を評価し どの部分に支援がいるのか等を細かく分析、検討を重ねることで より現状に即した介護計画が作成できるよう努力している。	入居時には状態を把握するまで1ヶ月ごとに、変化があればその度に、現状に合わせた計画と実践ができるよう細かく丁寧な課題・目標の設定、評価が全職員により行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇記録、24時間生活記録シート、連絡ノート、またケース会議、日々の申し送り時の情報交換等で集まる情報をもとに介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	インフォーマルなサービスや自立支援法、医療保険等に利用できるものがあれば柔軟に支援に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や民生委員を通じて、地域資源に関する情報(防災、行事等)を頂き 支援に反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでは法人の協力医を新たに主治医にと、希望される事が多かったが 今までのかかりつけ医を引き続き主治医に指定されるケースも経験している。その主治医との関係をいかに築くかが これからの課題である。	入居時に今後のかかりつけ医を家族と相談し、24時間相談できる協力医に変わる利用者が多い。通院介助は、家族と職員で状況に応じて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師の配置はないが 法人の看護師に相談、指導を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこれまでの経過や生活習慣を伝え 出来るだけ今までと近い生活を送ってもらえるように情報の提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何年来の課題ではあるが 事の複雑さ、多様さに事業所としてのガイドラインは策定できていないが 一般的な状況ではあるが重度化した場合や終末期に入居を継続しながら 医療保険やその他の制度で受けられる治療や看護、サービスについての情報を集めているところである。	医療的な処置が必要になると難しいが、家族と相談しながら、事業所でできる限りの介護と相談を行うことで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者全員、個別に急変時に備えての手順を定めている。事故発生時にはマニュアルに沿って対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回(夜間想定を含む)避難訓練を行っている。また自治会の防災訓練が事業所で行われたり 避難に関する情報を寄せて頂いたりして協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行い、地域の防災訓練にも参加し、協力関係はできている。備蓄は法人本部で用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴に関しては特に気を付けて対応している。毎日の生活の中で自分で決めながら生活をしていくことの重要性を理解し言葉かけや対応をしている。	利用者の生活暦や好みを把握した上で、日常の細かいことを利用者自身で選んで決めて暮らしている、という満足感を得られるような働きかけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が重度で希望や思いを表したりが難しい方でも、日々の生活の中で自分で決めてもらえる事柄や方法が必ずあるはずだと念頭に置いて支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設管理的な都合を出来るだけ排除し 本人本位の生活を送ってもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数か月に1度 理容のボランティアにきてもらい 好きな髪形にカットしてもらっている。また、その日に着る洋服は自分で決めてもらえるように工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは行っていないが 食卓の準備や食器、お盆拭き等は出来る利用者と職員で行っている。食事作りの代わりにおやつ作りや買い出しには利用者も参加し好きなものを作ったり、買ったりしている。	三食共に法人内の栄養士による季節や食材に配慮した献立で、朝は届けられた食材を調理し、昼夕は調理された料理を盛り付けている。重度化により利用者の調理参加は難しくなっている。職員と一緒に同じ料理を食べたり、弁当持参もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は管理栄養士のもとバランスの取れた食事を提供している。食事や水分の摂取量は記録し過不足のないよう把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の汚れは肺炎を誘発する可能性があるとの認識を常に頭において口腔ケアに努めている。自分で行うことが困難な利用者には口腔ウエットを用いて職員がふき取り清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在ほとんどの利用者が日中は布のパンツで過ごしている。終日リハパン使用者も布のパンツで過ごせる時間を少しでも作れないか 分析、検討を行っている。	布パンツで気持ちよく過ごせるように、間隔の把握や様子の観察から、声かけ・誘導を行い、積極的に改善するよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方が多く、運動や水分の摂取促進、手作りヨーグルトの提供等なるべく自力で排便できるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全な入浴のため職員体制の充実した時間内に限らせてもらっているのが現状だがその中で個人の希望や タイミングで自由に入浴してもらえるようにしている。	毎日入浴できる体制で、希望により、週2～3回の入浴となっている。個浴で随所に手すりがあり、車椅子利用者も職員2人で介助し入浴している。入浴剤を選んで楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用空間であるホールとそれぞれの居室は隣接しており 入居者は簡単に出入りできるので疲れたら休む等自由に過ごしている。寝具は洗濯され清潔に保たれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の服用している処方薬の薬剤情報を把握し、用法、用量の間違いないよう2重のチェックを行い服薬支援をしている。服用中に異変を感じたら主治医に即座に報告、指示を受けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に生活歴シートや本人の様子から好きな事、楽しめる事を探し出し、張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。散歩は気分転換や運動になるので積極的にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があまりなく 職員の方から散歩やドライブに誘っている。出かけた先で家族と合流し楽しい時間をすごしたり、地域の行事にお誘いをうけたりと出来る限りの外出支援を行っている。	積極的に外出したいという利用者がいないため、職員から働きかけて、会話や季節からきっかけを作り、ドライブや花見、買い物に出かけるように支援している。家族と外食する利用者もいる。	外出する機会を作ってはいるが、事業所内に閉じこもりがちな生活になっているため、個人的な外出を行うことで楽しみを作っていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中で数名は自分でお金を所持し管理されているが 他の方は事業所の方で預かり 個人で買い物などをしたときに自分で精算し支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には自分で携帯電話を持っておられる方、職員が取次ぎ電話で家族と話される方、希望があれば対応は可能である。手紙は年賀状を家族に出される程度にとどまっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は職員によって快適に過ごせるよう調節されている。壁には皆で作った季節の飾りや行事の写真などが貼ってあるが 日常生活空間であることを鑑みあまり華美にならぬよう配慮している。	明るく広々としたリビング兼ダイニングには利用者が集い、窓際には大きなテレビとソファが置かれ、職員と利用者がゆったり語らう様子も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のホール内には 数か所ソファを配置している。テレビを見ながらくつろいだり、一人になれる場所でゆっくりしたり、台所近くで職員と歓談したりとそれぞれである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族によってそれぞれ思い思いのレイアウトとなっている。誕生日には写真付きの色紙をプレゼントしているが、皆様部屋に飾ってください、それが増えていくのも職員ともども大きな喜びとなっている。	好みの家具や小物が置かれているが、洋室には大きいクローゼット、二部屋ある和室には押入れがあり、スッキリと片付いて、居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべて見渡せるような配置になっており 自分の行きたいところ したいところがひと目でわかるようになっている。動線には手すりをつけて安全にも配慮している。		